

The World's Greatest Motor Culture Magazine

ゲンロク 2016 年 10 月号臨時増刊
「モーターヘッド Vol.22」 2016 年 9 月 26 日発売

モーターヘッド

M
O
T
O
R
H
E
A
D
22

San-ei shobo
1200 JPY

TALK ABOUT...
PORSCHE.

特集：
語るポルシェ。



KING OF COOL



サブ特集：

Ferrari Custom Maniax.

跳ね馬のいじり方。

and so on...



伸びやかな肢体に殊の外映えるマンソリーのエアロプログラム。カーボンを一部残してボディ同色化を図るなど、大人の色気を漂わせる詳細が与えられている。とりわけ秀逸なのはトランクスポイラーであり、天面はボディ同色、下面はカーボンのまま。この塗り分け方がじつに印象に残った。また、ポカールDR5は前後通しの10.0J×22インチ。こだわりのブラッシュドサイドポリッシュ×スタンス仕上げが、煌めくような四肢を見事に形成。



POKAL & マンソリー、異質のコードで魅せる。

MANSORY

フロントバンパースポイラー／サイドステップ／リアバンパースポイラー／トランクスポイラー：オールカーボン

WHEEL

POKAL Custom Felgen DR5=10.0J×22(F&R)

高級輸入車のカスタマイズを大得意とする福岡のECスペックが、またもや問題作をモノにした。創作対象は純白のベントレー・コンチネンタル・フライングスパー。ごく限られた一部の富裕層だけが所有できる極上のネームだけに、いかに名うてのアーティストといえども、やや抑え気味のアレンジに留まるのかと思いきや、意外にも攻めに攻めたアプローチではないか。

ボトムはマンソリーのフルカーボンエアロをリップとディフューザー、トランクスポイラーの一部のみを残してボディ同色化。派手やかに装うのではなくチラ見せによるエロティシズムの発露をコンセプトに質高く仕上げられている。

が、面白いのはここから。なんと、コーディネートした肝心カナメといえるホイールにポカールを放り込んできたのだ。ポカールといえば、クラシックかつ斬新な装いの中にヤンチャ感をも秘めたイマドキな銘柄。とくれば、いかにもトリッ

キーなマッチングのように思えたのだが、実物を眺めてみれば、意外にもすっきりとまとまっており違和感がない。復権著しいディッシュディスクは伸びやかな肢体のなか存在感を訴求している上に、やや傾けられたキャンバースタイルもどっしり構えるのが定番のフライングスパーでは新鮮そのものといえる。

そう、稀代の業師が狙ったのは大胆素敵なフライングスパーのスタンス化。ポカール×マンソリーという異質なコラボレーションがスタンスと出会った結果、こんなにもセンセーショナルな作品が生まれた。鈍色に輝くブラッシュドサイドポリッシュ仕様の22インチが放つ威風堂々とした主張性を見抜いた、コンセプター井口氏の慧眼ぶりに舌を巻く。

福岡の地で一人気を吐くECスペック。関東や関西エリアとは異なり絶対的に輸入車乗りが少ない環境下ながら、これほどハイレベルな仕事を維持するあたり、日頃の研鑽と精進が思いやられる。📍



Custom Museum
NO.1

all-spec
Flying Spur

クルージング日和。

Text : 堀口 訓 Satoshi Horiguchi
Photo : 楠本ヒロト Hiroto Kusumoto